

JBCF 新型コロナウイルスに関する大会開催ガイドライン

2020.07.21

■はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する JBCF の取り組みとして、以下の通り対策ガイドラインを定める。この内容を基本として、対策として行い得る最適な施策を適宜採り入れながら、細心の注意を払って大会運営を行なうものとする。

今後新型コロナウイルス感染症対策専門家会議等公的機関のガイドラインに見直しが入った場合、また事務局がより効果的、効率的な運営ができると判断した場合はガイドラインは随時更新される。

■取り組み

【一般社団法人全日本実業団自転車競技連盟 (JBCF)】

- ・選手及び帯同スタッフ、大会役員、プレス、運営および設営スタッフ、施設管理者など来場する全員の安全確保に細心の注意をはらい、大会運営に万全を尽くす。会場内に入る全員に対して「健康状態に関する申告書」の事前提出を義務付け、管理する。
- ・最新情報や留意事項を確認し、その状況に応じて遅滞なく対応する。
- ・開催地自治体および関係機関・団体と連携し、関係情報の共有に努め、連絡体制の整備を行う。
- ・事前に厚生労働省の相談窓口、都道府県・保険所等の相談窓口の連絡先を確認し救急体制を整備し、緊急時の対応を迅速に行う。

【参加チーム】

- ・大会に参加する全ての選手及び帯同スタッフは、自己の責任において大会に参加すること及び当ガイドラインを遵守することを明記した「大会誓約書」(<https://forms.gle/djEoWKq62HMK3Jyr9>)を、チーム代表者名で提出する。
- ・2020年シーズンにおいて、誓約書を提出したチームのみがJBCFの大会に参加できるものとする。
- ・可能な限り、チームに関わる全ての者に対して毎日の検温を行なうよう通達する。

【大会共催者】

- ・開催地における行政の意向を最優先し、新型コロナウイルス感染拡大防止のため最大限の努力と対策を行い、具体的な施策をHP等で公開する。
- ・JBCFガイドラインを遵守するチームのみ参加可とする事に同意する。共催者スタッフのリスク管理については共催者が責任を追う。

- ・原則的に、以下の【対策】に挙げる、参加チームが講ずる対策と同様のものを求める。
- ・開催地の状況に合わせて、独自の取り組みを、JBCF と協議のうえで適宜実施するものとする。
- ・チームに対するガイドラインのアナウンス及び誓約書取り纏めは JBCF が行うことに同意する。

【全者共通】

- ・大会当日に会場入りする全ての選手やスタッフ、プレス、施設管理者等は、「健康状態に関する申告書」(<https://forms.gle/Bx1Uer24EoJp2yYJ8>) に記入し、大会前日 0 時から 20 時の間に提出する。これがない場合、大会への参加や会場入りを認めない。なお、同地域で連続して 2 日間開催される JBCF 大会に出場する場合、大会 1 日目の前日に 1 度提出すれば良い。
- ・下記に該当する場合は、何人も大会会場に入ることができない。選手は大会に参加することができない。
 - ・平熱を超える発熱（概ね 37 度 5 分以上）
 - ・咳、喉の痛みなど風邪の症状
 - ・だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
 - ・臭覚、味覚の異常
 - ・身体が重く感じる、疲れやすい等
 - ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある
 - ・同居家族や身近な人に感染が疑われる方が居る
 - ・過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域への渡航又は該当者との濃厚接触がある

■大会運営における対策

【JBCF】

<全体>

- ・選手、チーム帯同スタッフ、大会役員、プレス、運営および設営スタッフ、施設管理者等、会場に入る全ての人に対して「健康状態に関する申告書」(<https://forms.gle/Bx1Uer24EoJp2yYJ8>) に記入し、大会前日 0 時から 20 時の間に提出するよう義務付け、これが無いものは入場できないよう徹底する。
- ・当面は、無観客での開催とする。
- ・感染の拡がりや重症度をみながら、必要に応じて大会の規模を縮小する。
- ・来場予定者へ事前の注意喚起を行う（体調確認、手洗い、うがい、マスク、咳エチケット）。
- ・大会会場内を定期的に巡回・確認する。
- ・感染予防のためのアルコール消毒液等を準備し、手指消毒を実施する。

- ・非接触型体温計を準備し、大会会場入口にて全入場者の検温を実施する。37度5分以上の者の入場を認めない。
- ・インターネットやスマートフォンを使った電子的な事務処理の一層の普及を図り、大会会場での書面の記入や現金の授受等を避ける。
- ・来場者が JBCF の求める危機管理対策指導に応じない場合は、入場を制限する措置を取る。

<ライセンスコントロール>

- ・審判は全員マスク・手袋を着用する。
- ・参加者と審判が対面する場所にはビニールカーテンを設置する。
- ・待機列は1m～2m間隔を目安にカラーコーン設置もしくは地面にガムテープを貼る。
- ・ライセンスカードの提示及びゼッケン番号を申し出てもらい、ゼッケンをお渡しする。
- ・受付時間は各カテゴリースタート30分前までとする。

<検車/サイン>

- ・検車を行う審判はマスク・手袋を着用する。
- ・参加者と審判が対面する場所にはビニールカーテンを設置する。
- ・待機列は1m～2m間隔を目安にカラーコーン設置もしくは地面にガムテープを貼る。
- ・検車は各カテゴリーにスタート時刻の1時間前～10分前までとする。
- ・サインは行わず、審判によるボディゼッケンの目視確認のみとする。

<マネージャーミーティング>

- ・原則的に、オンラインにて実施する（基本的に ZOOM を使用）。
 - * RD、PCP、パネルメンバー、事務局のみ集合し発信基地とする。
 - * ミーティング URL は前日にチーム代表者へメール配信する。
- ・チーム代表者は各自の PC、スマートフォン、タブレット等で視聴する。
- ・アテンダントライセンスの確認は省略。大会エントリー時にアテンダントスタッフも登録することとする。
- ・コミュニケやスタートリスト、リザルトの掲出は行わない。
- ・会場の電波状況などの都合でオンラインによるマネージャーミーティングの実施が困難な場合は、マネージャーミーティングは行わない。大会前日に、必要な情報をコミュニケとして JBCF の HP に公開し、それをチームが確認することでマネージャーミーティングの代わりとする。出欠確認は省略する。チームからの不明点はあれば質問として受付し、JBCF が回答する。

<レース>

- ・レース前の整列時は選手間で距離を取るようにし、密を避ける。
- ・レース中、選手間の大声での会話は禁止とする。
- ・唾や痰を吐くことは極力行わないよう周知する。
- ・DNF となった選手は定められた導線で速やかにコース外へ移動。
- ・補給所では、補給員は一定間隔を保って補給を行なうよう徹底する。消毒液を設置。
- ・表彰式では、プレゼンターによる賞状の授与は行わない。選手には登壇前に渡しておく。
- ・表彰台での写真撮影は、選手同士の距離を一定に保ったままで行なう。

<マスク着用について>

- ・大会会場においては、マスク着用を原則とする。
- ・高温や多湿といった状況下では、熱中症のリスクを避けるため、屋外で十分な距離（少なくとも 2m 以上）が確保できる場合は、定期的にマスクを外すなどして対策する。

<新型コロナウイルス接触確認アプリ>

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大会に関わる全ての者はスマートフォンに当アプリ (https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html) をインストールするよう案内する。

<その他>

- ・ゴミは各自で持ち帰るよう、徹底する。
- ・会場のゴミ箱は使用しない。
- ・発症者又は疑いのある者の大会場内隔離スペースを準備する。

以上